

協同学習による授業改善

～授業に主体的に取り組む生徒を育てる～

城東中現職教育資料
2013.4.8

授業改善を目指して

- 全教科で取り組む
- 一問一答、一斉授業の見直し



グループ学習を組み入れた授業

協同学習とグループ学習

協同学習

グループ学習

- | | | |
|---------------------------|---|----------------------|
| □ 個人の責任
意見を言うこと・役割 | → | ない。
リーダーに任せっきり |
| □ 互いの意見の尊重
聞く責任・バカにしない | → | リーダー（できる子）の意見
に従う |
| □ 助け合い
浮沈を共にする仲間 | → | 責任のなすりつけあい |
| □ 対人的技能
相手に対して反応を示す | → | 無視もある |
| □ 改善手続き
次に活かす | → | ない |

協同学習の基本 1

相互協力関係

- グループの全員が浮沈を共にする仲間である、という意識を持つ。

互いに意見を聞き合う。
考えを述べ合う。
歩み寄ろうとする。

↓

各自の責任を果たす。
互いに協力する。
支え合う

協同学習の基本 2 個人の責任

- グループにどれだけ貢献しているか
 - グループのすべてのメンバーが最終結果に責任を持つ。
- ↓
- グループサイズが小さいほど、個人の責任は大きくなる。

具体的な方法の例

- 自作のワークシートやノートに、まず個人の考えを記入させる。
- ↓
- 個人の考えを持っていないと話し合いには入れない。自分の意見は反映されない。
 - 役割は、司会や発表係、記録係など、固定せず毎時間、交代

ちょっと脇道に逸れますが、 学級経営での活用

- **道徳・人権学習で**
人の多様な考え方に触れること
- ↓
- 意見の深まり・広がり
- **学級活動で**
学級の目標や行事の内容、生徒総会での提案など
- ↓
- 各自の認識が深くなる

人間
関係
の
改善

協同学習の流れ（例）

□ 個人の考え

個人の責任



□ グループで協議

個人の責任
相互協力関係
対面的積極的相互作用
対人的技能



□ 全体で協議・確認



□ 振り返り・・・個人・グループ

改善手続き

生徒の変容

- みんなで考えたことだから**自信を持って**発表できる。
- 授業の中で発表するのが**楽しい**。
- グループの話し合いに参加するためには自分の考えを**しっかり持たないと**
- 人の意見も**しっかり聞こう**。



学習意欲の向上・授業の活性化

自己肯定感・自尊感情の向上

□ 埋もれてしまう生徒



□ 意見を聞いてもらえる喜び
認められる喜び

□ できる生徒



□ 他者への気配り

教師の指導・助言
と褒め言葉

授業改善への取り組みと 実践事例の蓄積

協同学習を取り入れた授業

□ 発問の工夫

□ 授業の振り返り

□ 日頃の授業実践の記録の蓄積



協同学習は万能薬ではない

- 学校教育目標や各教科の目標の達成のため



方法手段としての協同学習

- 授業改善
- 使い方を間違えれば・・・

不安な点

- 勝手な行為に走る生徒が多くなるのでは？
→ 互いに尊重できる課題を設ければ○
- 授業の進度が遅くなるのでは？
→ すべての単元で協同学習をするわけではない
- 評価が難しいのでは？
→ 生徒を見ることは教師の努め

最後に

□協同学習には「教師の協同」が不可欠

□どの教科でも行うことでスムーズになる



□生徒も教師も真剣に、しかも楽しく
学び合い、励まし合い、学習できる